

会社の山仲間と北八ヶ岳の蓼科山～双子山へ山歩きに行ったときのこと。双子池ヒュッテを出たところの林道で、ふと足元に目をやると、動物の死体が転がっている。お、ヤツ！野ネズミか？と思ってよく見ると…おおお～～～ツ オコジョだああああ～～～つ いっぺんにテンション100%跳ね上がった比較的新しかったので大丈夫だろうと早速ハンカチに包んでビニール袋に収納。昼前頃に寄ったサービスエリアで保冷材を買って一緒に包む。まあ、車に轢かれたらしく、目玉が飛び出していて頭骨も壊れている可能性はあるものの、それでもオコジョはオコジョ。たとえ死体でも間近で見るとは初めてだ。いやあ これは今回の山行で最高の収穫である。一応会社の山仲間は、僕がこういう人間であるということは知っている。(団員H.M)

仕事の車で走っている最中に、和歌山市内で、車にひかれてお亡くなりになっている(ネコ、タヌキ、ドバト、キジバト、カラス、アカミミガメ)を発見し、場所を覚えておいて仕事が終わってから回収に向かうことが多いです。(行ったら、すでになかったことも…)会社の車なので仕事中の回収は、あのにおいが車に残るのも困るし、同乗者にどんびきされると思うのでしてません。ちなみに同乗者は目が御不自由な方が多い(鍼灸・マッサージ師さん)ため、遺体の確認はされていません。話していて面白がってくださった方がいらっしやいましたので、「アカミミガメが道のど真ん中でつぶれてるの拾ってきていいですか～」って聞いたら「やめてください」といわれました。(団員N.Y)

行く手に動物の死体が落ちています。 あなたならどうしますか **拾う!!**

うちの近所で大きな猫が死んでいた。車にはねられたようだ。幸い、周りに人はいない。何気なく近付いて、何気なく猫を拾い、そのまま何気なく家へ入る。そしてそれを持ってあくる日、会社に出勤。ロッカーにしまいこむ。仕事が終わってネコをかばんに入れて博物館へ。冬だったので、誰にも気づかれることは無かった。(団員H.M)

岸和田の駅前である冬の日、ピックアップしてくれる友人の車を待っていました。すると目の前の植え込みの影に白黒のにゃんこが。。少し鼻血を出している程度で、きれいなご遺体。拾いたい・・・しかし現場は朝の通勤時間帯にあたっており、ひっきりなしに車や人が通る。そこで、いかにもそのにゃんこがご存命であるようなふりをして近づき、抱き上げて、「おーおーおーおー、今日は寒いやねええ」などと語りかけながら、硬直したご遺体の様子が分からないように、ゆりかごのごとく優しくあやしつづけた。無論、友人の車にも、あやししながら乗り込んだ。「んー何その猫……ギャー！」(団長N)

会社の工場で、後輩が「Mさん、排水溝でカモが死んでるけど、どうする？」と教えてくれた。勤務中にもかかわらず、拾いに行く、ところを先輩に見付かる。「お前、そんなもんよう拾うなあ。気色悪い」といいながら、番線でフックを作ってカモを引き上げ、レジ袋にいれ、そそくさとロッカールームへ。幸い誰にも見付からず、自分のロッカーにしまい込み、終業を待つ。そして、何くわに顔をして、カモを鞆に入れ、そのまま社バス、電車を乗り継ぎ、博物館へ。(団員H.M)

会社に出勤して、更衣室の玄関前でヒヨドリが落ちていたのを発見。私の前後にも人がいたので、何気なく何かゴミでも拾うようさと拾い上げ、何も無いような顔してそのままロッカー室へ。別にあとで何も言われなかったので、おそらく誰も気づいていなかったはず。(団員H.M)

江坂公園で2羽のカラスがドバトを食べていた。幸い連れがいなかったので骨はもらおうと、公園で遊ぶ子供やママたちの視線がはずれてそうなタイミングでささとビニール袋に回収。カラスから横取り気味。(団員N.M)

朝出勤すると、警備員さんが、「出勤途中で杭全の交差点の南でタヌキが死んでいるのを見ましたよ。」とのこと。すぐにポリ袋をひつつかみ、自転車をとばしました。現場に着いてみると、なんとパトカーが止まっており、お巡りさん2人がタヌキを回収していました。すぐに、「それ標本にするので下さい。」と言ったところ、二人は顔を見合わせて何かぼそぼそ、やがて「では署まで来て下さい。」しょうがないので、東住吉警察まで行き、そこで、しばらく待たされた後もらってきました。タヌキの死体は拾得物ではなくてゴミ扱いだと思うので、すぐにくれてもいいのと思った次第です。(顧問T)

自分で見つけて拾ってくるというのではなく、誰かが見つけたのを「それちょうだい」といってもらう場合、とにかく恥ずかしいと思わず、堂々と申し出ること。(顧問T)

淀川の海老江干潟で保全協会の探鳥会があったのですが、そのとき、干潟に何か黒いものがあつたんです。もしや、と思って近付くと、案の定、オオバンの死体。このときは袋が無かったので、参加していた人たちに「誰かレジ袋持ってませんか～」と声かけまくって、2～3枚めぐんでもらい、無事収容。さらにもう一羽、ホシハジロの死体も発見。2羽をリュックに入れて観察会を続行。まとめのときに早速披露して、普段なら双眼鏡かスコープの向こうでしか見れない鳥を、目の前で見てもらうことが出来ました。かなり腐乱してたのですが、特徴はほとんど残っていたので、じっくり観察してもらえました。(団員H.M)

近木川河口で子猫の水死体を拾い、例のごとくビニール袋に入れ、リュックにしまった。(団員H.M)

堺泉北港のナガスクジラ。博物館の外に展示しているやつです。朝刊の隅に乗っていた、「堺泉北港に巨大クジラ」という記事を見て、「ほしいいんですけど」と大阪府港湾局に電話したネイチャー・スタディに書いたので、それを参照して下さい。(顧問T)

なにわホネホネ团的 死体回収エピソード

File No.001